

みんなの議会

2015年4月
第61号

はじまる

議
決

◎認定こども園に2.3億円……………2ページ

◎国の農協法の見直しに疑問……………3ページ

意
見

◎交付金「地方創生」の活用……………5ページ

◎コンパクト・タウンを議論……………6～9ページ

平成27年 第1回定例会

3月10日～16日

採決の結果、賛成少数で「不採択」に決しました。

27年度一般・特別会計予算
平成27年度一般会計予算など予算9件、条例6件が予算特別委員会（委員長・津川、副委員長・鶴野）に付託されました。3日間にわたる審査を経て報告され、意見を付して原案のとおり可決されました（詳細4・5ページ）
今予算は選挙直前であることから、政策予算を除いた骨格予算になります。政策予算は選挙後の6月定例会で審査されます。
なお、平成28年4月開園をめざしている認定こども園の工事費2.3億円など、継続性の高いものは、当初予算に盛り込まれました。

所管事務調査

総務民教並びに産建民生両常任委員会の所管事務調査報告があり、委員長報告のとおり了承されました。（詳細11～13ページ）

付託議件審査

総務民教常任委員会に付託されていた「特定秘密保護法案の廃止を求める陳情」は委員会での採決で「不採択」となりました。

高田委員長がその報告を行い、本会議で賛成・反対の立場からの討論を経て、

27年度(骨格)予算可決



骨格予算とは

町長・市長などの執行者が交替する可能性がある場合、その自治体の方針が決まるまで政策的な予算は出せません。

しかし、住民の健康や教育や職員給与などの自治体が継続していくための義務的予算（骨格予算）は必要です。

26年度一般・特別会計 補正予算

- ・自動車学校の指定管理料に400万円増
- ・夜間休日の救急医療体制確保に18万円増
- ・除雪トラック購入の国庫平均補助金が1000万円減
- ・公債の繰上償還に9300万円増
- ・ふるさと創生事業に関わるプレミアム付き商品券や子育て世帯商品券・子育て住宅助成などに4400万円。

その他に、不用額の精査などを行いました。

条例改正

教育委員長制度がなくなる
国の地方教育行政制度が変わりました。それを受けての条例改正ですが、教育長は町長の任命制となり、教育委員長という役職はなくなりません。なお、現教育長の任期中は現在の体制が維持されます。

介護保険が値上げ

介護予防支援などに関する基準を新たに定めたほか、今後3年間の月額基準介護保険料を4500円（940円増）としました。それでも全道的には低い方です。

その他

・町の行政区が明確に位置づけられていなかったため、あらためて条例化しました。
・職員給与を改定しました。平均2%の減額となります。

第1回臨時会

2月26日

一般会計補正予算

除雪費を580万円追加補正しました。

排雪と修理に不足が生じる恐れがあるとの説明でした。

議決された意見書

◎農協関係法制度の見直しに疑問

1. 食糧の安定供給、地域の振興について、農協法の目的に明確に位置づけし、事業目的の見直しにあたっては、協同組合の基本的性格を維持すること。
2. 準組合員は地域経済を支えるパートナーである。よって準組合員の農協利用制限は行わないこと。
3. JA・連合会の協同組合としての事業・組織を制約する事業方式、業務執行体制、法人形態などの制限は強制しないこと。

◎TPP交渉に係る衆参農林水産委員会委員会決議を遵守せよ

1. 平成25年4月の衆参農林水産委員会における決議「環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉参加に関する件について」を遵守するとともに、決議が遵守出来ない場合は、TPPから脱退すること。
2. EPA・FTAなどのすべての国際貿易交渉において、重要品目などの関税など、必要な国境措置を講ずること。

総務民教常任委員会に付託された意見書

H26年第4回定例会で付託された「特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書」採択に関する陳情は常任委員会では反対多数により不採択に決しました。なお、賛成者が複数いたので、少数意見を付記して報告されました。

審査意見

本陳情は「特定秘密の保護に関する法律」について3項目の問題点を指摘しているが本委員会審査結果は次の通りである。

- | | |
|------------------|---|
| 1. 罪刑法定主義に反する | ・ 特定秘密の範囲が限定され、項目の「非公知性」などが監視される。 |
| 2. 国民の知る権利、表現の自由 | ・ 同法の運用を監視する情報監視室が設置されている。 |
| 3. 現行法によっても十分に保護 | ・ 国家公務員法、自衛隊法では国家秘密漏洩者は処罰できるが、国家秘密を取得した者は処罰の対象にはなっていない。
同法24条25条では特定秘密を取得した者など、これらを共謀教唆・煽動した者の処罰を明記している。 |



委員会

3月11日
～13日

一般会計 39億円 特別会計 18.5億円 総額 57.5億円

骨格

3月10日の第1回定例会に於いて、新年度の予算などが予算等審査特別委員会に付託され、3月11日から13日にかけて、審査が行われました。

付託された案件は、条例6件、予算9件で、一般会計予算額39億円（前年40億円）特別会計18億5363万円の執行予算審査です。今年も骨格予算でしたが、たくさん質疑がされ、全案件を、可決しました。

おもな質疑

地域おこし協力隊の活用を

町の雇用につながる取り組みしてほしい。



国制度をうまく利用しながら、町内の雇用につながる取り組みしてほしい。

新商品の開発を

専門職による新商品の開発を検討すべきではないか。



必要性は認識している。地方創生で雇用の場の確保に繋がればよい。ただ、作るより売るほうが難しいので、販売にも力を入れたい。

消防の不正経理の経過を

町が一時的な支出をしているが、経過をきちんと残す必要がある。



これをうやむやには終わらせない。責任問題は今後も追及する。決算などに表現されるよう進めていきたい。

早期な住宅施策の対応

公営住宅の入居状況はほぼ100%で推移しており、移住定住を図る上でも早急な住宅施策の対応と、安くてよい子育て住宅が必要ではないか。



町外から通っている人が300人、その中で民間住宅に住んでいるのが約半分。若い人が住むところの確保をし、住宅施策は柱と考えている。



ふるさと納税の運用方法

観光PRや6次化などの取り組みも含め、もう少し充実した金額や中身を考えてはどうか。



返礼品の競争が過熱さみとの話もある。どこに主眼を置くかは論

議したい。何を提供するかについても充実させたい。

旭寿園の改善計画

介護職員の定着率が悪い中、マンパワーを減らして、ショートステイの稼働率を上げるなど業務過多と見受けられる。モチベーションの低下につながらないか。



今後、国の政策も構造的に先行きは暗い。職場が赤字になれば職員同士の協力も大切だ。少しずつ計画を進めたい。

化石に係る新年度の取組み

化石発掘の体験を減らすのだが、有効活用も必要だ。新年度は、どのように進めるか。

教育長 昨年、発掘の現場に行ったが化石が無かった。発掘しすぎたようだ。発掘体験のやり方を変えた。地層の珍しさの説明な



教育長

昨年、発掘の現場に行ったが化石が無かった。発掘しすぎたようだ。発掘体験のやり方を変えた。地層の珍しさの説明な

平成27年度 予算等審査特別委

委員長 津川 均
副委員長 鵜野 範之

沼田町にしか出来ない魅力的な総合戦略の策定を！

◎ 予算審査に付された意見 ◎

人口割合から見ると、本町の一般会計予算は空知管内でも群を抜いており当然のごとく住民サービスを含めた事業数も他町村に比べると多くなっている。

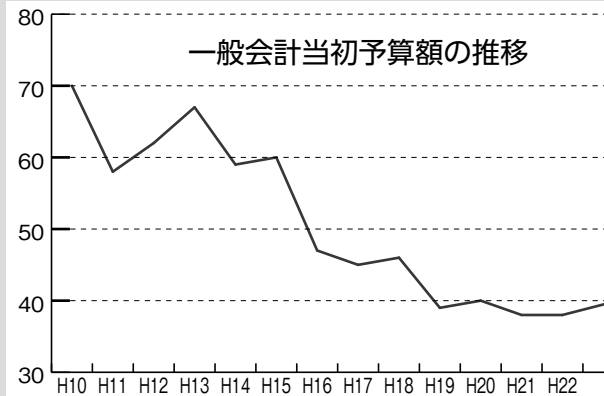
しかし、沼田町は「人口減少」、「高齢者社会への対応」、「少子化対策」などの数多くの課題を抱えている。

今年度は国の施策「地方創生」による総合戦略の策定を取り進める上で、まちの頭脳、やる気が試される。

「まちは、ひとを呼び、しごとを作る」本町の基幹産業である農業、そして観光業、商工業のアイデアなどを利用した雇用場の創出につながるための地域の特性を生かした産業政策が重要である。

そのためには新しい商品開発ができる環境づくりと知識ある人材が必要と考える。

さらには安心して暮らせる、まちづくりをする上で「移住定住」に繋がる住宅施策、若い世代の経済的安定を図る「子育て支援」などが重要課題と考え、沼田町にしか出来ないインパクトある、魅力的な総合戦略の策定を望む。



主な増加影響項目

- 認定子ども園整備事業
- O A管理事業（社会保障番号制度）
- 道路整備・維持事業（補助）
- 農産加工場運営費

どを体験館のメニューにしたい。
学芸員を1人増やして研究や調査活動に力を入れたい。



AEDS一元化



心臓蘇生機AEDはそれぞれの施設に設置しているが個数、使い方、電池の状況など一括管理できる部署が必要ではないか。



一括管理は複雑なことになるため、それぞれで管理した方がいいと思う。
町民に設置場所を知らせたい。

認定子ども園・子育て支援



認定子ども園を含めた子育て支援の充実をどのように推進するのか。



社会環境、育児環境など整えて、保育料についても考えていきたい。
教育レベルなど、特色を持たせる形を考えたい。

町長への一般質問

問 コンパクト・タウン「道の駅」に高規格道路の入り口を新設せよ

答 利益を生む「道の駅」が必要



久保 元 宏
議員

してしまい、閉じた空間を作ってしまう危険があります。

問 コンパクト・タウン構想の設計の財源を、国の補助金だけにすると、補助金の範囲内の事業しかできません。また、補助金から離れたのちのランニングコストの不安を、経営能力で解消する必要もあります。

一方、町長の構想では、町外からの人の流れを遮断



今、国も「道の駅」の事業内容と

新設の企画案を見直しています。それが久保議員が提案されたような地方創生の交流人口の拠点としてです。ですからタイミングのいい状況になっていきます。

① アイディアとしては解りますが、しかし、国を説得しなければならぬなどの問題を、少しずつ精査しながら進めていくべき。

② 沼田町に作るコンパクト・タウンに、国の色いろ

な事業を持つてくること

で、初期投資は補助金をあてたい。そしてハコモノを作った後は、そこでどういった経済活動を行うか、どう外貨を稼ぐかを考えて、人に来てもらうってお金を落とし、もらう必要がある。

中には赤字の「道の駅」もあるのだ、そうならないよう、きちんとしたシミュレーションが必要だ。

ランニングコストも、「道の駅」の利益から生まれれば一番いい。

ます。

地域が本気にならないとJRも本気になりません。

① 町長の考えは。
② もし設置した場合に沼田町も負担するのか。



私は本件で、すでにJR本社へ、

北竜と妹背牛の町長と一緒に訪問しています。JRの考えは、「エレベーターを取り付けるには、利用者が最低でも一日に3千人が必要だが、現状では2千人なので厳しい。」とのこと。

問 JR深川駅エレベーター設置の住民要望への対応は必要だ。負担は深川市と協議



高 田 勲
議員

その要望の署名は、現在では、1万人を超えています。

沼田町の署名活動は、老人クラブや身体障害者協会の方が中心になって、相当数が集まったようです。

問 「JR深川駅のホームにエレベーターを設置して欲しい」との要望が沼田町を含む多くの市町の住民から要望されています。

深川市もJR北海道と具体的な検討を進めていて、正念場を迎えています。

高田 勲議員のそのほかの質問

問 改正パート労働法への対応は答 賃金を改定した

① 今後、沼田町民が深川市の病院などを活用するようになるので、JR深川駅にエレベーターは必要。

② JR 滝川駅も要望から10年かかって2011年にエレベーターが新設された。負担は滝川市、国、JRがした。これからの要望活動の中で深川市の考えを聞いてから協議したい。

問 コンパクト・タウン構想の予算、規模をどう考えるか

答 土地利用も含め内部で検討中



之 範 野 議員

更に、この旧中学校跡地、グラウンドをどのように設計するのか、厚生クリニック、福祉施設など、各施設の規模はどうか、道路の設計は考えているのか。

問 コンパクト・タウン基本構想の中では、広

場、散策路、商業施設、交流施設、診療所、福祉施設、住宅など多くの施設が計画に載っているが、これら全て含めて計画を練っていくのか。

全体計画になると、各施設の位置や規模の計画に時間を要し、今年度より進められる厚生クリニックを建てる位置の選定が遅くなり、昨年町長が話していた厚生クリニックの平成29年4月の開業が遅れるのではないのか。

又、建物を作ると、当然維持していくには、ランニングコストが心配されるが、考えを聞きたい。



厚生クリニック 厚生クリニック

連と現在検討中です。

内部で、病院の将来の考え方を検討しています。最終的に厚生連本部と打ち合わせ、更に、沼田厚生クリニックと打ち合わせを行い検討していきたい。一般財源の持ち出しが少ない形をとっていききたい。

ランニングコストは施設の運営を進めるうえで当然かかるものです。

町全体の施設も含めコストのかからない運営もしなければいけません。人も維持管理も現状を見据え、全体の中で位置づけ、それらの施設を造っていききたい。

構想の中の土地利用は内部で検討しております。27年度以降の病院の体制が、まだ正式に決まってい

ませんので、体制決定後、協議を進め、議会にも提示したい。

問 広聴の充実が足りないのでは

答 地域に出向いての説明をすべきだった



誠 原 議員

問 金平町政を進める中で、今期4年間の広聴

の進め方を見た時、初年度は各地域を職員と共に回り、町民との対話を大切にしたい姿勢が見え、その事を基本に町政運営を行ない、町民に高評価でした。

しかし、2年目以降は地域に出向くことなく、「町長室解放」や、役場庁舎内にコーナーを設けた「ふらつトーク」は、いずれも町民が町に出てこなければ町長との対話が出来ない形が取られています。

町長の「町民の声に耳を

傾ける」姿勢が足りないのではないのか。昨年の10月の決算特別委員会での総括質問でも出されており、また、2月23日の議員セミナーで、第5次総合計画前期の検証を行った際にも広聴の進め方に各議員から厳しい評価が出されました。

このことを結果としてどのように受け止めているのか聞きたい。

また、地域担当職員を通じて地域の意見を聴く形をとっているが、町長が職員と共に同行する機会をもつてはどうか。

平成23年度町長に就任して懇談会を行った際、230人が参加。その後、各種団体との懇談会も行いました。



平成23年度町長に就任して懇談会

平成24年度は老人クラブの皆さんとのふれあい懇談会では延べ120人でした。平成25年度は医療と福祉の説明会を各地域で行い、病院の無床化の懇談を青年部の皆さんとも行い、各年度、懇談会など意見を聴く場は取ったつもりです。

議員の質問のように、それ以外に、もつと地域に向いて色々な説明をした方が良かったのではないかと私も思っております。

地域担当職員を通じて意見を聴き、行政に反映するつもりだった。

この機能が充分でなかったことは反省するところ



問 医療確保基金は診療所新築財源ではないのか

答 町民の健康や生命を守るために使う



渡邊 敏 昭
議員

問 地域医療確保安定化基金は、厚生クリニックスの改築のための基金ではないのか。

平成25年度クリニックス赤字対策などで基金が、3.8億あったものが21億取り崩され、17億になってしまいました。

26年度のクリニックス赤字をどの程度になると予想しているか。また、どのような方法でその赤字を埋めるつもりか。このままだと、厚生クリニックスは今後も赤字が出ると思われるが、減少対策をどう考えているか。

沼田町の医療を構築する上で今後ともこの基金は重要なものと考えているが、この基金を積み直す事は考えて

いないのか。



地域医療確保安定化基金は「本町

における医療の確保を図り、もって町民が安心して暮らすことのできる地域社会の実現に資する」という形で基金の設置の目的を押さええており、改築や整備に限定されるものではないという解釈で、過去にも赤字補填にそれを繰り入れていました。

26年度のクリニックス赤字は当初8200万円を予想していましたが、9000万円程度に膨らみそうな状況です。今後は「地域包括ケア」をしっかり作り上げ、赤字が出るにしても、町民の健康や生命がきちんと守れるようにしていきたいと思えます。

医療体制を安定的に、継続的に確保するために基金の存在は重要ですので、今

後とも基金の確保に努めていきたいと思っております。



渡邊敏昭議員のそのほかの質問

- 問** 商業施設建設には女性の意見を聴くべきだ
- 答** 安心して買い物ができる環境にしたい
- 問** JR深川駅のバリアフリー化は喫緊の課題
- 答** 近隣町とも相談し、JRに要請したい
- 問** 観光を町の主導で推進すべきだ
- 答** 民間活力に期待している。

上野敏夫議員のそのほかの質問

- 問** 農業・農家。農協に支援を
- 答** 農業政策全体の中で議論していく



問 診療所は今の場所がいい

答 単体では機能を果たせない



上野 敏 夫
議員

問 「コンパクト・タウン」は町民と作り上げると町長は考えているが、実際は役場職員以外で何人の町民と話し合ったのか。

また、正しく伝わっているのか。町長の公約にはハコモノは建てないとなっていたが、なかったか。

今年2月に町民説明会を開くと言っていたが、いつ開く予定なのか。

元中学校敷地にハコモノを建てるようだが、町民の利便性を第1に考えるべきと思う。

計画の中に道の駅があるようだが、必要なのか。

医療施設も考えているようだが、現在の「厚生クリニックス」の近くに建てて町民の利便性を第1に考える

べきと思うが、いかがか。



説明が足りないという指摘には反省します。

ただし、これは構想ですので、これから基本計画などの、具体的な計画に落とし込んで、どういった補助事業を使うなどの説明はこれからです。

なお、私は「ハコモノを建てない」言った記憶はありません。

説明会についてはクリニックスの新しい体制が決まっていますので、まだ行っていませんが、これから具体的な協議を行い、説明したいと考えています。

議会からの意見にもあるように、診療所が単体でそれひとつだけ立っていても機能を果たせません。介護施設やその他の関連施設が近くにあってこそ47%にもなる高齢者を支えることができますと考えています。

問 公約は守れたか
答 努力はした



中村 保夫
議員

問 町長に就任されてから4年が経とうとしています。重任ご苦労様でした。

町長も町議もそれぞれに公約を掲げ、町民の審判を経て今がある訳ですが、町長の公約は守れたか。個々の政策は道半ばであるとしても「町民の声が行政に反映される町づくり」は出来たか。

「今住んでいる皆さんは大切に」出来たか。説明会や懇談会で町民の意見を聴くのは至極当たり前のことであって、それ以上のことをやりたいと思っただけでマニフェストに書いてはくれない、それが守れてきたとは感じられない。不肖、私は「終末医療を

確保する」という公約を守れなかったので野に下る。



4年間を振り返って、大前提として「町民の声を聞く」というのは、私の出馬を決めた時を含めて基本的な考え方でやってきたつもりであります。

ただ全員が全員といいますが、町民皆さんとお話をするのができなかったの、それは反省しなければならぬと思います。どの層とは言えませぬけれども、話をさせていただいた方も多くさんいらっしゃいます。

いらない訳ではございません。ですから色いろ意見を聞けたことあります。それをできなかったと判断されるのか、そうでないかはというのは中村議員の判断でございますけれども、私としては聞く努力をさせていただきました。

沼田町が大好きだから

中村保夫

- ◎農業に活力を 将来を見据えた農業施策を提案します
- ◎医療・介護の充実を 厚生病院の新築を 療養ベッドの維持を 終末医療の確保を
- ◎女性と子供へ支援を 女性が活躍できる 活気ある町に 未就学児の費用を 全額町費負担に
- ◎商工業の活性化を 町民の起業意欲を 後押しします

豊かさを感じる

挙 公 報

沼田町選挙管理委員会

金平よしのり

選挙のあつめごとと未来の心算

選挙のあつめごとと未来の心算

選挙のあつめごとと未来の心算

傍聴席の生の声

つつまあわせの論議は地方議会にとってネックです。上向き傾向の町づくりを望むよりも住民の住民による手作り、活気ある議会運営が不安不満のない町作りへと変わると思いました。63才男性



今定例会の傍聴者は26人でした。なお、今期4年間の傍聴者数は延べ295人でした。たくさんの町民に見守られての議会は、緊張しますが力も入ります。6月には新しく選ばれた議員が登壇します。ご期待の上、傍聴をお待ちいたしております。

沼田町議会4年間の足跡

定例議会	議決された意見書	一般質問		傍聴者数	
		町長	教育長		
H23	6月		9	39	
	9月	3	8	5	
	12月	1	10	11	
H24	3月	1	8	22	
	6月	1	7	9	
	9月	2	10	13	
H25	12月	1	9	16	
	3月	4	7	1	16
	6月		7	1	7
H26	9月	4	7		29
	12月	6	8		10
	3月	1	10		19
H27	6月	5	6	1	6
	9月	4	9	2	42
	12月	2	9	1	25
H27	3月	2	12		26

定例会平均	2.3	8.5	0.6	18.4
	件	件	件	人

○産建福祉常任委員会所管事務調査項目

- ・「農地の集積」について (H23. 6 ~ H23.12)
- ・福祉環境について (H24. 1 ~ H25. 3)
- ・雪環境の整備について (H25. 4 ~ H26. 3)
- ・予約制バスの利用について (H26. 4 ~ H27. 3)
- ・観光事業について (H26.10 ~ H27. 3)

委員長 絵内勝己
副委員長 鵜野範之
委員 渡辺敏昭・上野敏夫・津川均



○総務民協常任委員会所管事務調査項目

- ・地域資源の活用について (H23. 4 ~ H24. 3)
- ・地域防災について (H24. 4 ~ H25. 3)
- ・移住定住の効果的な進め方について (H25. 4 ~ H26. 3)
- ・ごみの減量化について (H26. 4 ~ H27. 3)

委員長 高田勲
副委員長 久保元宏
委員 中村保夫・長原誠・津川均



○特別委員会設置状況

- ・平成22年度決算特別委員会 (H23.11)
- ・平成24年度予算等審査特別委員会 (H24. 3)
- ・まちづくり調査特別委員会 (H24. 3 ~ H25. 9)
- ・平成23年度決算特別委員会 (H24.10)
- ・平成25年度予算等審査特別委員会 (H25. 3)
- ・平成24年度決算特別委員会 (H25.10)
- ・平成26年度予算等審査特別委員会 (H26. 3)
- ・平成25年度決算特別委員会 (H26.10)
- ・平成27年度予算等審査特別委員会 (H27. 3)
- ・議会広報特別委員会 (H23. 5 ~ H27. 4)

委員長	津川 均	副委員長	長原 誠
委員長	津川 均	副委員長	鵜野範之
委員長	津川 均	副委員長	渡辺敏昭
委員長	津川 均	副委員長	久保元宏
委員長	津川 均	副委員長	長原 誠
委員長	中村保夫	副委員長	鵜野範之
委員長	津川 均	副委員長	久保元宏
委員長	津川 均	副委員長	長原 誠
委員長	津川 均	副委員長	鵜野範之
委員長	中村保夫	副委員長	長原 誠



下川町は、木の端材で燃料を自給。

総務民教 常任委員会 ★ 調査報告

昨年の4月から今年の2月まで会議を6回、町外への視察を2町で行い、意見書をまとめた。

委員長 高田 勲
副委員長 久保元宏
委員 中村保夫
長原 誠
津川 均

ゴミの減量化について

沼田町は2003年から「有料ゴミ袋」を採用し、2010年から「資源ゴミの分別」が開始された。それぞれ、現在は住民に定着している。さらにリサイクルに対する啓もう活動などを推進して、さらなるゴミの資源化などでゴミの減量化をはかることが重要だ。

意見

1) 可燃ゴミの資源化

当面は北空知衛生センター組合における現状の分別方式を踏襲しながら、紙ゴミの資源化を進めるべきと考える。将来的にはプラスチックゴミの資源化をはかり、併せて可燃ゴミの減少を進めるべきである。

沼田町が参加している『北・中空知廃棄物処理広域連合』の歌志内市にあるゴミ処理施設『エネクリーン』と同じ、「ストーカー方式」を採用。



南宗谷衛生施設センター組合

ストーカー式・焼却炉

ゴミを少しずつ前へ送り出しながら、連続して燃焼する炉。



ディスプレイは台所の友♪

2) ディスポーザー普及事業の推進

沼田町が実施しているディスポーザー普及事業は、他の市町村ではあまり実施していない先進事例と考える。現在の下水道供用区域に於ける普及率は27%程度であるが、その利便性や衛生環境の向上を訴えながら更なる普及推進をはかるべきである。

3) 啓もう活動と資源ゴミ売却益の還元

学校教育に取り入れるなど啓もう活動を進めながら、資源ゴミの売却益を無料配布にするなどで町民に還元し、リサイクル意識の高揚を目的とした施設を実施すべきである。

ゴミ袋の負担を、町民のゴミ減量化の努力と交換してプレゼントするのは、いかがか。



新年度の「ゴミ収集カレンダー」。

4) 「ゴミ収集カレンダー」のさらなる充実

住民から好評をいただいているが、ゴミ分別表を最終ページに追加することにより、1年間を通じてカレンダーをめくることで、いつでも住民の知りたい情報が確認できるなどの工夫が求められる。

最終ページの「ゴミ分別表」や、スマホのアプリ活用など、さっそく進化しています♪

会所管事務調査報告



委員長 勝己 繪内
副委員長 範之 野 鶴
委員 敏夫 上野
敏昭 渡辺
均 津川

予約制バスの 利用について

意見

(1) 効率的な運行の実現に向けて、今ある「定期バス」・「福祉ハイヤー事業」・「予約制バス運行」の運行方法などの見直しにより、デマンド方式（バス・ハイヤー）を利用した沼田町独自の運行方法の検討が望まれる。

(2) 利用促進に当たっては予約方式に対する理解を深め、待ち時間等に対する抵抗感を軽減するための工夫と地域間の利用格差の改善に向けた住民への周知等の取り組みが必要である。



予約制バス利用方法

予約をする 役場建設課

35-2116 へ電話

- ① 名前
- ② 連絡先
- ③ 希望の時間
- ④ 目的地を伝える。

乗車料金 1乗車 100円

本町の公共交通は人口の減少などの影響で利用者が減り、事業者による地域の交通網が縮小され、さらには住民の高齢化に伴い郊外から市街地までの交通の確保が必要になっている。こうした交通弱者対策として、「高齢者ハイヤー利用事業」、「重度障害者ハイヤー料金補助事業」などの福祉を目的とした交通支援、平成25年からは予約制バスの実証実験運行を行っている。

今後は、さらに重要性が大きくなる事を考え、充実を図るうえで、予約制バスや乗り合いタクシーの運行に取り組んでいる、厚真町、長沼町、猿仏村の調査を実施した。

どこの町村も課題は同じく、昭和63年以降、輸送人員の減少等から民間バス事業の撤退が相次ぎ、生活路線（地域の足）維持、確保のため、民間廃止路線を町が引き継ぎ、さらに利用者の減少により、効率の良い予約制バスの事業に取り組んでいた。コストの面では、逼迫した財政の中、多額の運行経費を必要として

いるが、それぞれ工夫をし、利用者の負担の軽減と利用促進を図っていた。

沼田町においても、高齢化社会への対応、安全で安心な移動を可能とする「地域の足」の確保、公共交通空白の解消、バスサービスの向上、生活交通の確保のため、デマンド型（予約制バス）交通の導入により合理的な運行を実施し、交通体系の確立を目指す必要がある。

調査結果を次の意見を付し、報告とする。



産建福祉常任委員

観光事業について

意見

(1) 観光業と農商工業が連携した、観光地域づくりを推進していくためには、多様な主体の連携と協働が不可欠であり、これらをコーディネートしつつ、長期間行うイベントやフード戦略、サービスをプロデュースできる、民間の事業マインドと経営センスを持った責任者が不可欠である。

そのためには、新たな独立した組織が必要と考えられる。

(2) 観光を推進する組織が、持続的かつ効果的に必要な事業を行っていくためには、安定した独自財源を確保していく必要があり、自立した運営への配慮が必要である。

これからの観光事業については「新成長戦略（基本方針）」の中で、観光立国・地域活性化戦略が位置づけられている。地方自治体の観光政策は観光振興を「まちづくり」や「むらおこし」に活かしていくための観光地域づくり、さらには広域観光や人材育成等の取り組みが重要となるなど、多様化、複合化してきている。

これまでの観光協会の活動も、このような新たな取り組みを推進して行くためにも体制の変革が求められている。沼田町においても、開拓120年となり、その歴史のなかでたくさんさんの空間と時間、文化が生まれてきた。「夜高あんどん祭り」などのイベント・伝統文化、「ほたる・化石」などの自然環境・資源の保全、「雪中米・雪夏祭」などの雪を利用したエネルギー・コミュニティ、「本願寺駅通・クラウドス15号蒸気機関車」

などの文化財の保護、「米・野菜・加工品」などの新鮮・安全な地場産品の販売など、たくさんさんの観光資源がある。この資源を観光業と農商工業者とが連携し、地域経済全体の振興をも視野に入れた観光地域づくりを進めるには、これらをコーディネートし、新たな事業や商品を生み出すことができる組織が必要と考え調査を実施した。



全国町村議会議長会 「自治功労者表彰」

この度、杉本議長、絵内議員が全国議会議長会自治功労者表彰を授賞されました。

杉本議長は、議長7年以上による授賞、絵内議員は、議員15年以上による授賞です。

定例会本会議前、議場に

て伝達式が行われました。

杉本議長は、12月の北海道社会貢献賞に続いての授賞になります。

議会議務局交代

議会議務局の吉田書記が4月1日付けで北海道経済産業局へ派遣となります。

3年6ヶ月、議会議務局

としての職務ご苦労さまでした。

道経済産業局での活躍を期待しています。



同日付で、林亮太書記が

農業商工課より、議会議務局に異動となりました。

どうぞ、宜しく願います。



あとがき

今期の議会広報委員として「みんなの議会」の発刊も最後となりました。第46号から第61号まで16回の発刊に携わりました。

最初は、議員自らが編集をすることの難しさを感じながら、慣れないワードソフトに戸惑いながら編集をした事がおもいだされます。

とくに、夜遅くまで編集に苦労した第48号が、全道議会広報コンクールで特選をいただいた時は喜びもひとしおでありました。

「一人でも多くの町民に見て、読んでもらえる広報誌」に心掛けながらの編集でした。

第62号より議会広報委員が変わりますが、今まで以上に読んでもらえる広報になってもらいたいと思います。

広報特別委員

中村保夫 長原 誠
鶴野範之 久保元宏

みんなの広場

土地改良区の役割



沼田町土地改良区 理事長 岡田 聖人

本年度、沼田町土地改良区の役員満了に伴い新しく理事長に就任しました。大変重責ではありますが、常に農業者の気持ちを忘れず務めていきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

土地改良区の役割は、農作物に必要な水（主に水稻栽培）を圃場に入水する為の施設管理・維持、現在の機械化・将来の大規模経営を見据えた農業に必要な基盤整備及び暗渠工事等、主に農業の土台の部分を担当しています。特に水の管理については、自然相手ですので頭首工・ダム、貯水池・揚水機を使い5月から8月までの4か月間、近年の変動の激しい天候にも対応できる水を供給出来る様、組合員・用水管理組合と連携を取りながら行っています。先人の方々が、沼田町の農業が水稻を中心とした経営が出来る様、苦勞をして作り上げた各施設を維持・管理する土地改良区を次世代に継承出来る様、役職員一同頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

本年も雪が少なく又雪解けも例年に比べ著しく早く、水の心配もありますが、自然相手の農業、組合員の協力のもと自然の恵みの水を大切に使用して豊穰の秋を迎えることを願うとともに、皆様に良質な農産物をお届け出来るよう沼田町土地改良区も沼田町農業の一翼を担うよう頑張りますので今後ご指導応援よろしくお願いいたします。